

PV-Net News



PV-Net News第9号 2005年12月7日発行 ■発行人：日江井榮二郎 ■編集人：都筑 建 ■発行所：太陽光発電所ネットワーク 〒101-0061千代田区三崎町2-15-5-6F
 ■記事・広告等のお問い合わせ E-Mail: info@greenenergy.jp TEL: 03-3221-3370 ※記事および写真等の無断転載は固くお断わりいたします。
 ■インターネットでも情報をご覧ください。www.greenenergy.jp ■印刷：豊印刷(株) ■レイアウト：八木澤晴子 ■編集協力：(株)NOBOX
 ※太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。
 太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network, Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

CONTENTS もくじ

- 1 ニューストピックス
大集合イベントが開催されます
会員を増やしましょう!
イベント出展花盛り!
 - 2 特集 徹底検証!
会員拡大プロジェクト
第1部：会員拡大を進めるにあたって
 - 4 第2部：座談会
「会員拡大の方法論について」
 - 8 PV-Net最前線
「平成17年度地域協同実施排出抑制対策推進モデル事業」の取り組み
PV-Green証書が売れています!
「太陽光発電所ネットワークフォーラムin大阪 9/25」を準備して
 - 10 イベント情報
全国の太陽光発電所長、集まれ!
 - 11 連載 太陽光発電がよくわかる
とっておきの話 第5回
 - 12 各地の発電量データと
太陽光発電所マップ
 - 14 会員の広場
 - 16 PV-Netレポート
PVメーカー交流会の目的と
最新報告
 - 19 活動報告 地域の動き
 - 22 理事会&部会報告
 - 24 事務局からのお知らせ
事務局日誌
- COLUMN** コラム
- 23 PV-Net川柳 第七回

NEWS TOPICS

大集合イベントが開催されます

来たる12月10日(土)午後、千代田区神田駿河台の明治大学リバティタワー11階で、恒例の「全国太陽光発電所長・大集合イベント」が開催されます。かつて出席された方はこのイベントの盛りだくさんな内容をご承知ですが、一度も参加されていない方は、その活気が「PV-Net News」の事後報告だけでは到底理解しきれないと思います。とにかく「来てみにゃわからんこの活気」です。是非一度参加してみてください。

会場の定員の関係で、できるだけ事前申込みをお願いしています。ハガキでもご案内していましたが、この会報がお手元に届いてから申込みまでの期間が極めて短いので、イベント情報のページ(P.10)をよくお読みいただき、大至急申込みの手続きをしてください。先着160名だけに参加資格が発生します。「オプション申込み」というものもあります。

会員を増やしましょう!

会員になった人の中には、「会報を年に4冊もらえるだけでも会費の元がとれる」と言ってくれる方がいます。「太陽光発電に関する深い知識がたくさん得られる」との声も多い「PV-Net News」。

しかし、この会報の存在を知っているのは全国の太陽光発電設備設置者約25万人のうち、たったの1,265人(2005年11月20日現在)です。まだ当会の存在を知らない設置者に、なんとかしてPV-Netを紹介し、会員にならないと損をすることに気づいていただきましょう!(お誘いのためのリーフレットなども用意できます。詳細は事務局まで)

そこで、今回の号では「会員拡大」特集(P.2-7)を組みました。第2部の座談会では、会員拡大のハウツーに関する貴重な意見・提案を数多く紹介しています。是非ご参考ください。

イベント出展花盛り!

各地域からこの秋のシーズンに参加・出展したイベントの報告が多数届いています。また、この第9号会報がお手元に届いたすぐあとの12月15日(木)~17日(土)に東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクツ2005」をはじめとして、これからも各地で様々なイベントへの参加・出展が予定されています。みなさん、PV-Netブースへの冷やかしも兼ねて、お近くで開催されるイベントに是非お出かけください。PV-Netブースをお手伝いいただけるスタッフも募集中です。

特集 徹底検証！ 会員拡大プロジェクト

PV-Netの知名度の向上や発言力の強化、そして財政の自立化に直結する効果をもたらす会員拡大。今回の特集では、PV-Net2005年度活動方針の最優先重点課題のひとつに掲げた、この「会員拡大」活動の意義と現状、そしてその方法論について検証します。

第1部 ★ 会員拡大を進めるにあたって

■ 会員拡大プロジェクト発足！

第2回(9/14)、第3回(11/5)理事会で会員拡大を議題として用意しましたが、盛りだくさんの議題のために十分な意見交換討議ができていません。現状打開を図るために、日江井榮二郎理事長を座長に会員拡大プロジェクトを発足することになりました。

ここで一度、PV-Net2005年度議案書(P.28)活動方針<重点課題>の1番目にある「会員拡大の多様化と調和」を再確認してみます。

「地域の地道な交流を通じて着実に会員を増やしつつ、PV-Greenや相談室などの独自事業活動との連携により、大幅な会員増を目指します。会員増はPV-Netの知名度、発言力の強化や財政自立化に直結する効果をもたらしますが、同時に会員構成の多様化を促します。特にNPO法の前では参加形態が限定的でないためその傾向がより助長されます。

2005年度末には関東外の会員拡大も入れて3,000名の会員組織にすることを目指します。そのためにはネットワーク全体で複合しながらプロジェクト形式で会員拡大を進めます。」

■ 会員拡大プロジェクトの方針と計画

次のように具体化を図ろうとしています。

- 1) 明確な目標を立てる！
 - ・今年度の目標は3,000名

- ・地域でも自主的に目標を立てる
- 2) 成功事例に学ぶ！
 - ・思ったほど順調に拡大しない現実を認識した上で考える
 - ・起死回生の方便は？(発想の転換を)
 - ・基盤はできるだけ多くの会員の地道な活動の積み重ね
 - ・成功事例に学ぶ
- 3) PV-Net活動事業を会員拡大とリンクさせて！
 - ・地域交流イベント+PV-Green+相談活動+普及広報部活動+ホームページ(以下、HP)+……
- 4) 具体的なアクションは！
 - ・PV-Netに興味を持っていただいているメンバー(5,000名)へ「加入のお願い」を、「12月大集合イベント」と「PV-Green2006年2月募集」の案内と同封発送
 - ・最近の入会者へ加入動機などのアンケートを行い、傾向を把握し効率的な方策を探る
 - ・自治体とPV基礎講座などで協同し、広くPV-Netを知らせる
 - ・会員拡大用ツール(マニュアルなど)をHPのサイトにアップし、随時利用する
 - ・メディア向け発信を充実させる
 - ・会員が知り合いの方を紹介しあう(特に関東地域外の設置者を)
 - ・友好団体や信頼の置ける設置業者を発掘し、協働しながらPV-Netを紹介する
 - ・ポストイン活動を推進
 - ・そして、なによりも「おらかな」仲間づくりをベースに

■ 会員数の推移から見た 会員拡大の傾向と対策

地域別会員数の推移グラフから、いくつかの特徴が読み取れます。

2003年5月のPV-Net発足時、最大で70名、少ないところで20名の人数で地域交流会がスタートしています。

設立総会後の03年9月には会報を創刊。地域を精力的にまわり、各地でPV-Netフォーラムを原則2回開催し、地域交流を立ち上げました。その集大成が03年12月20日の第1回太陽光発電所長大集合イベントでした。この一連の地域交流会づくり活動が、会員数の大きな飛躍のカーブを示しています。

急激な動きの反動か、年明けての会員数は横ばいが続きました。ただ、04年総会を機に、その他会員(関東圏外)が徐々に、そして確実に増えています。これは前年の大イベントのメインテーマ「ユニークな発電所コンテスト」をまとめた本『わが家ではじめる太陽光発電』が全国の書店に並んだことによる効果で、それを手に取った人々から入会の申し込みが続いたからです。

04年11月から12月にかけて階段状の増加が見られます。特に東京地域の増加が顕著です。12月大イベントへ参加しやすい地理的な利点働いたと思われる。埼玉地域にもその傾向がうかがえ、PV-Netに接する機会が増すと加入者も増えることを表しています。

もうひとつ目立つのは、05年7月から3カ月の間に50名を超える静岡地域の急激な増加です。地道

なポストイン活動、新開拓の静岡県西部への展開、さらに自治体と連携した動きが結果として現れました。この傾向はまだ続く勢いとなっています。

また、新規の組織化を果たした宮崎地域が、40名を超える会員でスタートしたのも会員拡大の面から新しい動きとして重視する必要があります。

■ 会員拡大の各地の方法

大きく広報手段、企画内容に分けられますが、多くは、企画内容と広報手段を組み合わせる会員拡大を実施しています。

～広報手段～

① ポスティング(ポストイン)

すでに経験済みの人もいますが、PV設置宅を見つけ、チラシやリーフレットを、直接話をして渡すか、ポストに入れる方法。

<工夫例>

1. PV-Net製の名刺を添える
2. 簡単な誘いの手紙を添える
3. イベントやPV-Greenへの誘いなどのチラシを合わせる

② マスコミ利用

いい企画を立て、マスコミが記事にしやすいようポイントを文章化し、記者クラブで記者発表したり、ポストに入れたり、個別に記者にニュースを渡すなどして記事になりやすくする。

<工夫例>

1. 何が特別なのか、アピール点を

社会一般の視点からも紹介
2. 問い合わせ先として地域と東京事務局のふたつを併記

③ 自治体との連携

様々なレベルや形があり、じっくりと育てることで会員拡大につながります。例えば、その自治体がPV設置補助をしていたら、その対象者にPV-Green説明会などのイベント情報などの案内を出してもら(静岡の会員増事例)。

④ 他のイベント利用

PVや自然エネルギー関連の他のイベントなどへの参加は、いろいろな人にPV-Netを紹介するチャンスです。特に、イベントのブース出展は、活動紹介の場所として効果的です。

例えば講演会などの場合、質疑の際に、自己紹介の中でさりげなく会の紹介をするなどの方法もあります。

⑤ ネットやメーリングリストの利用

PVや自然エネルギー関連のHPに掲載の掲示板やイベント紹介の書き込み欄があれば、PV-Netやイベントの紹介ができます。

関連メーリングリスト(以下、ML)も、ネットで探すと、無料で登録できるものが結構多くあり、他からの情報も得られます。

<工夫例>

掲示板やMLの話の腰を折らない程度にPV-Netを紹介します。また、PV-Netのことを知らない人向けに書く視点を忘れず、「転送歓迎」など添えると、さらに他に紹介される

こともあります。

～企画内容～

① フォーラム&懇親会

PV設置者が参加したくなる集まりを企画し、参加者を広く募集するのがポイントです。

<工夫例>

1. 見学会とミニ・フォーラムを組み合わせる
2. 遠くの人でも参加しやすいよう、都道府県内各地区で開催する
3. 自治体と一緒に考えるなど、連携しやすい形を工夫する

② 見学会

近くのPVや自然エネルギー施設などの見学会を企画し、参加者を広く集めます。途中でPV-Netの活動や会員特典の紹介などを行い、入会を勧めます。

③ PV-Green説明会

PV-Greenへ参加を希望される方に入会を求める方法です。日取りを決めたあと、一般、マスコミ、自治体、MLなどに告知します。当日はPV-Greenプロジェクトメンバーなどが説明を担当することも可です。一緒にミニ・フォーラムなどを開催するパターンもあります。

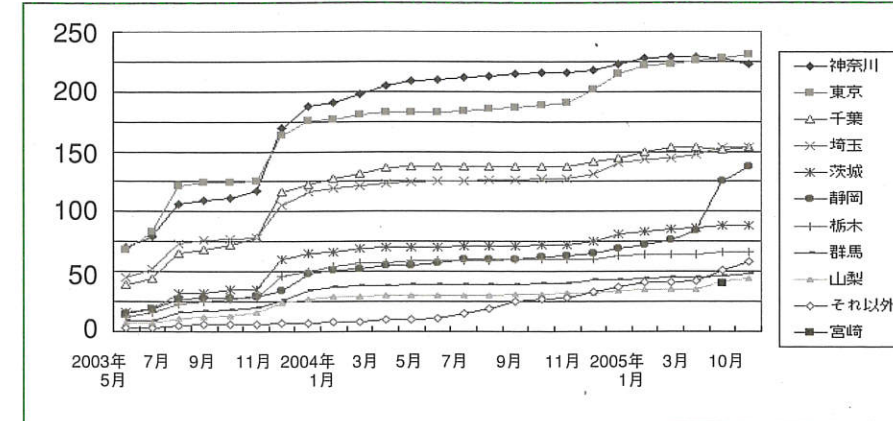
■ 関東圏外での動き

本年10月には、九州・宮崎で関東圏外初の地域交流会が発足、PV-Net飛躍の出発点になりました。さらに、大阪地域交流会の準備会が、関西初のPV-Netフォーラムを開催し、活動を始めました。

中部地域では、昨年11月に地域交流会の準備の打ち合わせが行われ、前回12月イベントでも特別報告がありました。万博現地として関わり、多忙で滞っていましたが、活動が再開され、本年中には準備会が発足する勢いです。

このほかにも岩手、福井、福岡などで会員の交流が始まっています。次号の会報の会員マップの変化が楽しみになります。

● 地域別会員数の推移



第2部 ★ 座談会「会員拡大の方法論について」

設立3年目を迎えたPV-Net。関東圏以外にも会員数を増やしてきたが、今年度の目標数3,000名へはまだまだ手が届かない。

理事会や各地域で会員拡大が叫ばれる中、実践の場で会員を増やしてきた静岡、独自の企画を立て会員増加を狙う山梨、関西初の地域交流会立ち上げ準備を進める大阪、これから取り組みが始まる愛知、それぞれの立場から会員拡大の方法論を語ってもらった。

■自己紹介

都筑：まずは簡単な自己紹介からお願いします。

山下：静岡地域交流会の代表をしています。当交流会は、発足当初29名でスタートしましたが、現在会員数は139名（2005年10月31日時点）になっています。

現役時代は保険の営業に携わり、転勤で各地をまわっていました。現役時代に培った経験がいまになって大変役に立っています。

大友：山梨地域交流会の代表をしています。12年前、山梨県内で初めて太陽光発電システムの系統連系を行いました。設置当初は経済性・採算性・機能面について周囲からは疑問視する反応しかなかったのですが、12年経ったいま、自分のまわりにどんどん設置する人が増えてきています。

昨年は、山梨の世話人会で企画した手づくり発電所を、募集時と完成時に山梨日日新聞に取り上げてもらいました。新聞を見て問い合わせのある未設置者の方へは準備



理事兼山梨地域交流会代表の大友 哲さん

会員での入会を進めています。

岸本：大阪の会員です。阪神・淡路大震災後に「小規模分散」という意味を実践するために太陽光発電システムを設置しました。設置から10年経ちます。システムの調子が良くなかったこともあり、関心が薄くなっていたのですが、新規設置の強い動機付けとなるPV-Green活動を知ったことと、愛知万博ボランティアへの参加をきっかけにPV-Netの活動に興味を持ちはじめました。

大阪では会員4名が中心になって9月25日に関西地区で初めてフォーラム（大阪地域交流会立ち上げ準備会）を開催しました。

藤田：愛知の会員です。武谷三男（※1）の科学思想を研究しつつ、各地で環境教育のアドバイスをしています。「安全性の考え方」の論理で太陽光発電原状回復訴訟を準備しています（詳細はP.15「会員の広場」を参照）。

PV-Net編の『わが家ではじめる太陽光発電』を読んだことをきっかけに入会を決めました。私は「こういうものを求めてPV-Netの活動に加わりたい」という視点で話したいと思います。

■ポストイン活動

都筑：今回の座談会のテーマ「会員拡大」ということで大きな成果を挙げている静岡、手づくり発電

日時：2005年11月5日 11:00～12:30
 場所：事務局
 参加者：日江井榮二郎（代表理事・会員拡大担当）
 山下正道（理事・静岡地域交流会代表）
 大友 哲（理事・山梨地域交流会代表）
 岸本康子
 （大阪地域交流会立ち上げ準備会 事務局）
 藤田邦彦（愛知県会員）
 司会：都筑 建（事務局長）
 記録：伊藤まき（事務局）



大阪地域交流会立ち上げ準備会事務局の岸本康子さん

所などの独自の活動から会員拡大に取り組みはじめた山梨、地域交流会立ち上げ準備会を開催し、これから会員拡大をしていく大阪、まだ核となる人の集まりはないけれど、近い将来大阪と同様に活動が期待される愛知、それぞれの立場の方に集まってもらいました。

まずは地域の状況、各人が行っている会員拡大の方法について教えてください。

山下：静岡地域交流会では初年度にPV-Netフォーラムを2回、見学会「太陽光発電見学&食べ放題！地ビールのみ放題！」を行って、1年後には会員が57名になりました。その後、ポストイン活動（※2）に力を入れ、現在は自治体主催の環境イベント（「しずおか環境森林フェア」など）へ数多く出展しています。

ポストイン活動は、静岡世話人の中では主に私ともうひとりのメンバー、田中東紀男さんが行っています。個別に訪問して話をするのが好きなんです。私が60軒く

らいのときに彼は100軒近くポストインをしていました。気が向いたときに近所をまわり、設置してある家を見つけています。1軒あると、まわりに5、6軒はあります。いままでに10名が会員になり、うち2名は世話人になってもらいました。

都筑：訪問して断られたときはどうですか？

山下：訪問して最初は断られるのが当たり前だと思っています。2回目、3回目と訪問して初めて打ち解けて話ができるんです。

伊藤：大阪の岸本さんも、準備会フォーラムを開催するときにポストインをして人を集めたのですよね。

岸本：それ以外、設置者を知る方法がなかったんです。4人で手分けして設置者宅を探しました。私は通勤途中の行き帰りに、自転車で毎日道を変えて15軒ほど見つけました。留守宅が多かったですね。

山下さん、第一声はどんなことを言われるのですか？

山下：太陽光発電をつけているかを聞き、自分も設置者であることを伝えます。「いつつけたのか」、「メーカーはどこか」などの雑談をしたあと、PV-Netという設置者同士の会ができて、相互にサポートしあえる状況であること、活動に加わらないか、などの趣旨を伝えています。

また、自分のPV健康診断の受診した実体験や、故障時に個人では話が進まないこともあるなどの会員の経験談を話しています。はじ



愛知県名古屋市の会員、藤田邦彦さん

めは必ず業者と間違われますね。

留守の場合は住所と名前を控えて後日訪問します。

岸本：インターフォン越しに話す場合は、自己紹介と訪問趣旨を先に伝えないと話を聞いてくれないですね。「発電は順調ですか」と聞くと、女性の場合は「主人が管理しています」、男性の場合には「順調」、「いま忙しい」などと言われ、なかなか話が続きません。

市内の場合は屋根が見えないので設置者宅もなかなかわからないのです。電信柱の「逆潮流有り」の表示を見つけても、どこの家かまではわかりにくいです。建て込んでいるため、電線の引き込みを見たらうえて、目当てとなる家に電力メーターがふたつ（売電用・買電用）ついているかまでを確認するのが大変です。

山下：男性の場合は「必要がない」とはっきり断りますね。奥さんの場合、対応は良いのですが、会員になってもらうにはご主人と対面しないと話が進まない。何回か訪問したあとに「あら、よく来たね」とひょっこり会員になってくれることもあります。一人ひとりが違うので、話の内容は全くケースバイケースです。

岸本：八尾市に住んでいる中心メンバーの3名がポストイン活動をして19名の設置者名簿をつくりました。この方たちに呼びかけて太陽光発電やPV-Greenなどの勉強会を開く予定です。参加後にはその中から核となって活動して下さる方が出れば良いと思っています。

■加入者側から見た会員拡大

都筑：郊外はみなさんおおらかですね。郊外と都心の違いがあるのでしょうか。

次は加入する側からの意見を聞かせてもらえますか。

藤田：原状回復訴訟を起こすにあたり、類書をいろいろ色々読んだのですが、参考になるものはあり



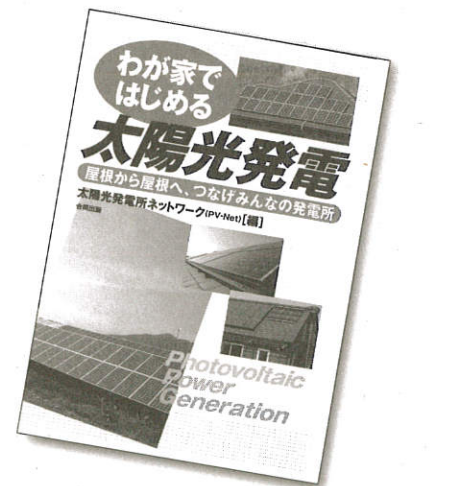
「しずおか環境森林フェア」の様子

ませんでした。日陰で困っている人はたくさんいると思うのですが、太陽光発電に関わる研究がないのです。

そんなとき『わが家ではじめる太陽光発電』を読み、励まされました。この本には「設置者同士が孤立することなく手を繋いでいく」という「PV-Net憲法」と呼ぶべき宣言が掲げられ、夢を実現させるロマンと具体的な手立てが書かれています。千葉の南さん、茨城の磯部さんをはじめ、設置されている方の深い自然観があり、示唆に富んでいます。

PV-Netを知らない市民、未来に生きる子どもに向けてのポケット版をつくり、この会のすばらしさに出会う機会をつくってほしい。小中学校の図書館に入ったら子どもが飛びついて読む、そんな本が理想です。これまで「環境と人権」に関する本を書いたので協力できることはします。

実践している人々の話には説得力がありますね。希望の持ち



2004年6月10日刊行の「わが家ではじめる太陽光発電」

にくい世の中だからこそ、この本に触れることで子どもたちが環境と平和のために太陽光発電をやりたいと思う……そんなポケット版が駅のキオスクなどにも並んだら、私のようにPV-Netに参加してくる人が増えるのではないのでしょうか。

日江井：いま藤田さんのお話をお聞きし、大変太陽光を大切にされている様子を伺うことができ、心強く思いました。PV-Net会員には自然を大切に思っている人がたくさんおられることを実感しました。

大友：私はポストイン活動を、あえてしていません。「入会してメリットがある」と胸を張って言える会にしてからポストインをしたいんです。

PV-Greenなどは、まず山梨内で販売実績をつくるのが先決です。実績があれば新規会員の勧誘にも説得力が出ます。

■マスコミの利用

伊藤：大友さんはPV-Net以外にも様々な活動に参加され、イベントなどでPV-Netの宣伝をされていますね。

大友：広報の影響は大きいですね。山梨では手づくり発電所で2回、PV-Netフォーラム開催で1回、PV-Greenで2回、新聞へ掲載されました。記事の内容によって未設置者、設置者、設置事業者から問い合わせがきます。自分から入会した人は、その後の活動が積極的です。

岸本：活動を新聞に取り上げてもらえるにはどうしたらよいですか？ 準備会フォーラム前に記者



理事 兼 静岡地域交流会代表の山下正道さん

会見をやりましたが、府庁の記者クラブへ行ってしまったので何の成果もありませんでした。

大友：新聞社（山梨の場合は一度活動を上げてくれた山梨日日新聞社）に足を運び、記事になるか聞いたり、電話で記事内容に適した部署を教えてください、記者の方へ直接問い合わせたりします。地方紙などはよく取り上げてくれますよ。

山下：一度取り上げられると、ほかの社からも取材がきます。記者は面識があると取り上げてくれますが、そうでないと活動・人物への信用面で敬遠されやすい。

私の場合は県庁に足を運んで色々話しましたが、1年間相手にされませんでした。けれども、地元の新聞に取り上げられてから、県のホームページ（以下、HP）から取材の申込みがありました。

大友：取り上げて欲しい内容は、まず自分の中で記事（トピックスとストーリー）を考えて、記事になる内容を聞いてみるのがいいですよ。例えば、山梨で初めてPV-Green証書を個人購入してくれた方がいるのですが、いまはその人が額縁に入ったPV-Green証書を玄関に飾って喜んでいる様子の写真を撮って、それを記事にしてもらうことをイメージしています（11月23日付山梨日日新聞にPV-Green証書の山梨県内初購入事例として掲載されました）。

岸本：先の準備会フォーラムでは、HPを見て兵庫県や石川県などから参加してくれた人がいました。

都筑：HPの効果も大きいですね。

藤田：私は原状回復の提訴記者会見の場で、全マスコミにPV-Netのリーフレットを配布し紹介しようと思います。

■自治体との協同活動

都筑：自治体の話に移ります。自治体と協同してうまく活動しているのは静岡、神奈川、埼玉、栃木

ですね。静岡の話は少し聞かせてもらえますか。

山下：当初は実績がないので正面から行っても全く相手にしてもらえませんでした。静岡の場合は、たまたま会員に県職員がいたので、その方に世話人となってもらいました。その方の関係から県のイベントに出展させてもらったのをきっかけに、徐々に信頼関係を築いていったのです。

1回イベントで顔つなぎができれば、次回からこちらの要望が言えます。愛知万博を含め、各種のイベント出展は世話人の経験にもなっていました。

都筑：単純に「PV-Netどうですか？」という形ではなく、何かの関わりを持って浸透させていくということですか？

山下：そうです。今年は地域交流会の活動資金として応募した県の「地域の人材活用支援事業」補助で、私たちの応募した活動が採用されました。そして県の職員の方との関係で情報交換を活発に行い、書類を作成しました。金額は10万円ですが、今後のあしがかりとして大きいと思います。

知り合いがあることは強いです。静岡には、会員の中に県職員、自治体職員が多く、そのつながりか



手づくり太陽光発電が紹介された新聞記事（「山梨日日新聞」2005年9月28日発行）

ら活動を広げています。

岸本：自治体との関係は必要だと思うのですが、自治体職員の知り合いがない場合はどうやって関係をつくっていったらいいですかね。

大友：PV健康診断などのツールを活用してはどうですか？ 甲府市へ一度打診をした際、「お金が絡むと難しいですが、無料でしていただければ何かは絡めて取り入れやすいです」との返事ももらっています。事業として自治体からお金をもらおうと思うと敬遠されますが、自治体のイベントで健康診断を無料でやりますなどといった形で話をもっていったら良いと思います。

岸本：自治体主催のイベントに何らかの形で参加して、そこから人間関係を築いていくことですね。

都筑：埼玉地域交流会では、川越市と協同で太陽光発電の既設・新規設置者向け相談説明会を行っています。広報は市が行い、実際の相談は埼玉世話人が受ける形です。ボランティアとして市と協同で行うのはひとつの方法ですね。大体、各自治体はNPOとの共同事業制度を持っているんですよ。

■交流会の立ち上げ

都筑：次に藤田さんにお伺いしたいのですが、中部でも立ち上げ準備を進めていくのですが、地域に交流会を立ち上げることは必要だと思いますか？ また、立ち上げの方法論を考えたりすることはありますか？



9月25日に行われた関西初のPV-Netフォーラムin大阪の様子

藤田：今回、私は裁判について東京の事務局を訪ね相談しました。都筑さん、伊藤さんが丁寧に対応してくださり、ありがたかった。自分が相談したいとき、また設置者の方が困ったことがあるとき、愛知に交流会があればそこへ行くと思います。地域の中で足腰がしっかりした運動体があることは、太陽光発電を普及させていくうえでも大変有意義だと思います。

都筑：大阪の場合は、交流会立ち上げの呼びかけに応じた4名が活動してくださっていますが、愛知に住む一会員として、中部ではどのようにつくっていくのが良いと思いますか？

藤田：まずは愛知県内の会員に、どんな思いで設置したか、どんな会をつくりたいかを聞くことから始まるのではないかと思います。自分もPV健康診断などに関しては初心者なので、愛知で先進的に取り組んでいる方に積極的に話を聞きたい。

都筑：岸本さん、立ち上げはじめた地域として藤田さんに何かアドバイスなどはありますか？

岸本：やはり、一度まず愛知県内の会員の方と会われることだと思います。

都筑：大阪の場合はなんて呼ぶ呼びかけましたか？

岸本：地域交流会を立ち上げませんか。

大友：ただ呼びかけて待っているだけでは2、3人しかきません。それと同じように、交流会も「中心になってやってくれませんか」と、強い思いで伝えないと会は動かないと思います。

山梨のPV-Greenに例えて言えば、個別にコンタクトして参加を呼びかける必要がありました。会員40名のうち、約半数が参加してくれましたが、個別に説得しないと難しいことです。

都筑：大阪を見ていると、4名の結束が固い。現在は会員数が10名



代表理事 兼 会員拡大プロジェクトのリーダーの日江井 繁二郎さん

になっており、兵庫、京都、滋賀、和歌山を含めると18名になっています。

岸本：会議の時間調整は結構大変ですね。たった4人ですが、日程調整が大変です。

都筑：各地域交流会は地域のキーマン、静岡なら山下さん、山梨なら大友さんなどが世話人会と一緒に頑張るかどうかが大きいですね。

岸本：ある程度スピードをもって人数を確保しないと、会が継続していかないと聞いています。会の中身を充実させることも大事ですが、一步一步、丁寧に歩いているうちに、肝心の会が消えてしまっ

ては大変です。葛藤もあります。迷っている前に、会が自立するまではなんとか会員を増やしていかないといけないと思っています。

■座談会を終えて……

日江井：ポストインもひとつの手段ですが、大事なことは人と人との接触だと思います。相手に信頼を得るまでもっていくのは大変で、すぐには花が咲かないかもしれませんが、みなさん地道な努力をされていることに敬意を表します。ポストインの文書の内容も考慮の余地があるかもしれません。私も会員拡大には努力するつもりです。

※1武谷三男：理論物理学者にして戦後日本を代表する科学思想家。
 ※2ポストイン活動：PV-Netの活動を広めて参加者を増やすため、会のリーフレットを設置者宅へ投函もしくは対面して渡すこと。

「平成17年度地域協同実施排出抑制対策推進モデル事業」の取り組み

※この事業は環境省の委託事業です(会報8号P.9参照)。新エネルギーの中でも太陽光発電の導入を力強く推進しようとする神奈川県と共鳴し、実施につながりました。

このモデル事業を推進する「地域密着型グリーン電力証書システム構築検討会(略称:PV-Green検討会)」を立ち上げました。太陽光発電のグリーン電力証書システムを活用し、新規設置を広げる仕組みと「PV-Green基金(仮称)」の構築のため、知恵を出し合います。舞台は神奈川県です。

第1回PV-Green検討会を10月31日に開催

会議は参加者の緊張した面持ちの中でスタート。まず、モデル事業における検討会の役割と実施スケジュールについて確認し、情報共有のあと、基金のイメージなど自由に意見を出し合いました。

国が住宅用太陽光発電導入促進事業を終了されると言われる中、神奈川県は新しい形の支援の仕組みをつくらうと模索しています。一方で、グリーン電力証書の購入ニーズや知名度はまだ低く、そのために政策的な後押しが必要であること、また現在グリーン電力証書を購入している企業の導入動機の把握が必要との意見が出されました。

検討会委員の顔ぶれは、座長を山地憲治氏(グリーン電力認証機構委員長、東京大学大学院教授)にお願いし、県、政府系金融機関、県内シンクタンク、投資会社、デザイナー、PVメーカーの各担当者、PV-Net事務局長都筑(事務局:手塚)です。

得意分野を生かして役割分担

国レベルの政策全体から捉えた意見、持続的な運用に向けた様々な基金のあり方などの提案を持ち寄りながら議論を進めます。県に

は、条例や行政手続き上の工夫で可能な、制度面での支援策を模索するための情報提供や提案を、PVメーカーには基金と絡めた新規設置と販売促進の視点から提案と議論への参加を呼びかけ、また、ビジュアル化した内容で主旨を伝えるツールづくりも進めます。

証書購入先のニーズを把握

太陽光発電のグリーン電力証書がもっと気軽に使われるために、求められている社会環境像を掴むため、証書の購入想定先の状況を概観します。神奈川県内の環境配慮型企業・団体に対し、県と協力してアンケートの実施を準備中です。

単年度事業のため、駆け足進行となりますが、この事業および検討会を通して、太陽光発電の新規設置を促す実践的なモデルをつくり、他の自治体に先駆けます。今後の展開にご期待ください。

PV-Green証書が売れています!

実は、グリーン電力証書システムは、2003年に風力、次にバイオマス発電による証書が導入され、既に確立したものです。PV-Netがこのシステムに参加し、新たに分散型の「太陽光発電によるグリーン電力証書」を発行するようになったことで、証書購入者は地域に密着した自然エネルギーの支援と環境

貢献へのアピールが可能になりました。特に、住宅に設置された太陽光発電によるグリーン電力証書を、社会に発信しているのは、PV-Netだけです。

同時に変化が起きています。大規模な発電源のグリーン電力証書は、これまで大企業に買われる、いわば大口同士のやり取りが主流

でしたが、いま、住宅設置の個人発電所のグリーン電力証書を、個人が購入し支援できる、つまり小口の市民同士のやり取りにも広がりがつつあります。そのような地域に密着したPV-Green証書の活用先をふたつご紹介します。

深谷 伝統的建物保存とまちの活性化フォーラム2005～地場産材(木材・瓦・レンガ)のコラボレーションin深谷～

主催はNPO法人深谷にぎわい工房、埼玉県。会場は七つ梅酒造跡(深谷市)で11月26、27日開催。「メイン・トーク“伝統的建物保存とまちづくり”」、「蔵めぐり」、「深谷名物“煮ぼうとう”の販売」、と彩り豊かなイベントです。

PV-Green活用は、「持続可能な社会構築、地産地消、PV-Greenが埼玉県内の“環境価値”と特定可能な点から、フォーラム全体の質の厚みを増し、参加者の共感を得られる」という意義によるもの。太

陽光発電も地域の材、「財」なのだ
と納得です。

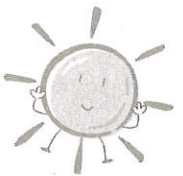


フォーラムのポスター。右下部に「このフォーラムで使用される電力の全ては、県内の太陽光発電施設のグリーン電力証書の活用によってクリーンな電気でまかなわれています。」と紹介

個人宅の消費電力1,000kWhをグリーンに

これは画期的な例です。PV導入を長年検討している山梨の方が購入者。発電の設備を持たない人も、グリーン電力証書を活用することで電気を選ぶことができます。

みなさんからのPV-Green証書の活用、活用先の紹介もお待ちしています!



「太陽光発電所ネットワークフォーラムin大阪 9/25」を準備して

大阪地域交流会準備会・岸本康子

開催までの道のり

この9月25日、関西で初めてのPV-Netフォーラムを開催しました。「大阪で地域交流会を立ち上げよう」と事務局から呼びかけられ、6月に集まったのは4人。関東では活発に活動されているのはウスウス知ってはいたし、いずれ関西にも、と思っただけでも、具体的なイメージなどトンと無いままのスタート。

他地区のホームページ(以下、HP)を見せていただくと、頻りに会議を持っておられる様子。あんなことできるかなと半信半疑ながら、大阪府庁環境課担当者とお会いしたり、記者発表も企画したりしてみました。記者発表では根回しが必要なのでしょう。新聞社関係参加者は5人。

そんな中でしたことは、「屋根を見て歩く」、家が建て込んでいるところでは「電柱の『逆流あり』

を見る」と、初め冗談のように言っていたことを続けました。パネルを見つけるとチラシを渡し、取り付け動機などを聞き、PV-Netの活動を紹介していったのです。

関西初のフォーラムを終えて

不安の中で当日を迎えたのですが、PV-NetのHPを見て来られた方もあり、HPに掲載していただいたのは良かったと思いました。また、関係団体へのアピールも、もっと積極的にすれば良かったと思いました。

もちろん、私たちが歩いてコンタクトを取った方も来ていただきました。参加者は石川、兵庫、京都、奈良と広範囲にわたり、なんとか準備会発足を宣言して終わりました。

懇親会にはほとんどの方が参加くださり、本音でお話できたのではないのでしょうか。近いうちに関



関西で初めて開催したPV-Netフォーラムにご参加いただいたみなさん

西で交流会の立ち上げが実現できるでしょう。

また、当日の電気はPV-Green証書を活用し、本物のPV-Green証書を展示しました。

なにも無いところから何かできそうな感じが出てきて、うれしく思います。

資料を提供して下さった地域交流会のみなさま、参加PVメーカーのみなさま、いろいろサポート下さった事務局のみなさま、ありがとうございました。

全国の太陽光発電所長、集まれ!

今年も、全国の太陽光発電(PV)のユーザーに呼びかけ、「全国太陽光発電所長・大集合イベント」を開きます。PVと建築との関わりについての講演や、自宅のPVのニックネーム・コンテストなど、ユーザーならではの企画が盛りだくさん。今年、全国に広がりつつあるPV-Netの活動も振り返ります。

役立つ情報がいっぱいイベントです。一般の方も大歓迎ですので、ぜひ誘い合って参加ください。



昨年の大集合イベント会場に設置したPV健康診断コーナー

概要

- 開催日時 2005年12月10日(土)
13:00~17:00(懇親会は19:00まで)
- 開催場所 明治大学リバティタワー11階(1114教室・1115教室)
(東京都千代田区神田駿河台1-1)
- 展示開始 12:00(1115教室)
- 受付開始 12:30(1114教室手前)
- 参加費 無料(申込先着160名)
- アクセス ★JR/東京メトロ丸の内線 御茶ノ水駅「御茶ノ水口」3分
★都営新宿線/三田線/東京メトロ半蔵門線 神保町駅「A5」出口8分
★東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅「B5」出口5分



プログラム(予定)

- ◎第1部...13:00~14:40(1114教室)
 - ・講演 中島康孝氏
「太陽光発電と建築の関わりとその展望(仮題)」
(工学院大学名誉教授、NPO法人建築環境・設備技術情報センター理事長)
 - ・活動紹介リレートーク
各地域の特色ある活動をご紹介します。
- ◎第2部...15:20~17:00(1114教室)
 - ・活動紹介
世界に先駆けたPVのグリーン電力証書「PV-Green」の取り組みや、開設1周年の「相談室」の成果、さらに愛知万博出展の様子などを紹介します。
- ◎第3部...17:30~19:00(SKYLARKガーデンズ)
 - ・懇親会 各地の発電所長との出会いの場です。
(実費3,000円程)
- ◎展示コーナー(展示・相談コーナー・コンテスト投票)
 - ...12:00~(1115教室)
 - ・常設 地域交流会活動、PV-Net活動展示・紹介、コンテスト投票所
 - ・休憩時 太陽光発電相談室、PV健康診断コーナー、PV-Green個別相談コーナーを開設

おもな内容

◆第1回太陽光発電所(PV)ニックネーム・コンテストを行います!

会員の個性あふれる太陽光発電のニックネームの人気投票です。自宅のPVのニックネームをPVカルテに登録するとコンテストに参加できます(第1回メ切12月1日)。当日、参加者による投票を行います。詳細はホームページを見ていただくか事務局に問い合わせください。賞品もお楽しみに!

来年は、PV写真コンテストを行いたいと思っています。PVカルテに発電所の写真が登録できるようになっておりますので、みなさんも是非ご登録ください。

※PVカルテに登録済みでイベントへの参加を申し込まれた方は、自動的に参加対象となります。ニックネームを登録済の方でコンテストに参加したくない方は、11/30までに事務局へ連絡ください(ハガキで連絡済みですが、まだの方は至急事務局まで連絡ください)。

◆PV-Greenの個別相談コーナー

PV-Greenについてもっと詳しく知りたい方、参加を迷っている方などにぴったりです。オプション申込みで相談申込みができます。

※イベントの内容について随時、詳細をホームページに掲載します。

＝イベント参加申込み方法＝

(会員のみなさんにはハガキで既にご案内済み)

申込み必要事項をできるだけ12/5まで(オプション希望は12/1までに事務局へ連絡ください。

ホームページの「会員のページ」からの申込みが便利です。人数把握のため、早目の申込みに協力ください。

- ・申込み必要事項(メ切12/5)
 - ①氏名、②会員番号、③イベント出欠、④懇親会出欠
- ・オプション希望の必要事項(メ切12/1)
 - ①お誘いや配布用チラシ等の希望部数：大集合イベントのチラシと会のリーフレットを送ります。知り合いや近くのPV設置者に渡してください。
 - ②PV健康診断の受診希望：12/3までに記入済みPVカルテの送付が必要です。
 - ③太陽光発電の相談希望：相談の内容(当日可能な分を回答します)
 - ④PV-Green相談希望

※当日対応のものは希望多数の場合先着順の可能性あり。

連載

太陽光発電がよくわかる とっておきの話

第5回 地球上の循環系について

いつかはなくなってしまう地球の内側の資源に頼らず、外から供給されるエネルギーを利用することが大切だと説いた太陽光博士、ドクター・ケロルッチ。博士の話はさらに、「地球上の循環系」へと進みます。



ぶん：おたにけんじ え：やぎっち

ケロルッチの説明によれば、外からエネルギーを持つてくれば、その内ではエネルギーが無くならない、とのこと。つまりは、地球の外から入ってくる太陽エネルギーを利用すれば、地球上で利用できるエネルギーは無くならないのです。

その太陽エネルギーの大きさは……と言ふと、一時間に降り注ぐ太陽光線が、全人類が一年間に消費するエネルギーの大きさとほぼ同じくらい。その大きさは四〇〇エクサ・ジュール(エクサは10の18乗。百京)。

そう言われても、テルミちゃんにはとても想像が付きません。けれども、そのエネルギーが、海を暖め、雲をつくり、雨となって川に注ぎ、水が循環していること、そしてこの水が地球上の生命を育んでいることは、いつもの生活から容易に想像できました。

この広い宇宙で、恐らく地球上にだけ生命が存在しているのは、適度な太陽エネルギーと水の循環の恩恵を受けているのになりません。

「植物が、何も食べずに水だけで大きく育つのは、太陽の光を浴びているからね」

「そう。緑色植物では、「光合成」といって、葉っぱで太陽エネルギーを変換して栄養分をつくるよ」

「そして、この植物がわたしたちの食卓に並ぶのね。お米とか、サラダとか……」

「植物を食べて大きくなる動物は、人間以外にもいっぱいいる。草食動物さ。そして、その草食動物を食べて大きくなる肉食動物もいる」

ケロルッチは、地球上におけるもうひとつの循環系である「食物連鎖」に触れまわした。

「われわれカエル一族は、食物連鎖の頂点にいるのさ、すごいだろ!」

テルミちゃんは、ケロルッチがモズのはやにえと聞いて三段跳びで逃げたことを思い出してクスリとしました。けれども、ケロルッチからもっといろいろなることを知りたいので黙っていました。

「しかし、その循環を続けていくためにはバランスが必要だよ」とケロルッチが続けます。

「もし、太陽光の強さが二倍もあつたら、川や海は干上がってしまうかもしれない。もし、カエル一族の数が二倍だつたら、バッタなどの草食昆虫はいなくなってしまうかもしれない」

自然界では、もしこのようなことが起こつたとしても、調整が効くと考えられています。例えば、太陽光線が強まると水の蒸発が増えれば、雲が広がって太陽光線をさえぎる可能性があります。肉食動物が増

えて草食動物が一時的に減つても、食料である草食動物が減ることによって、自然に肉食動物も減っていきます。

「このバランスを大きく崩そうとしているのは人間たちさ」

ケロルッチのニヒルなまなざしが強まりました。

「前に聞いた地球温暖化ね……」

「そう、人間は化石燃料をたくさん使っているんだよ。人間も自然の一部なのに、自然の調整が効かなくなるくらい乱暴なことをしている」

「それじゃ、どうしたらいいの?」

「川を泳ぐとき、流れに逆らって泳ぐのは大変だよ」

「わたしは川では泳がないけど、夏に『流れるプール』というので遊んだわ。水の流れと逆に泳ぐのは本当に大変だった!」

「ああ、あれもひとつの循環系だね。そう、流れに逆らわずに、流れに沿って生きていけばいいんじゃないかな」と、ケロルッチの大人の回答。

「流れに沿うこと、それが再生可能な方法。イングリッシュで『リニューアブル』さ」

(つづく)

このコーナーへの感想、ご意見をお待ちしています。また、ドクター・ケロルッチへの質問などがありましたら、ハガキまたはEメールなどで事務局会報係までお寄せください。

各地の発電量データと太陽光発電所マップ

都道府県別発電量

北海道	12,951 kWh
岩手県	13,446 kWh
宮城県	4,787 kWh
福島県	9,061 kWh
茨城県	262,868 kWh
栃木県	230,709 kWh
群馬県	155,696 kWh
埼玉県	554,095 kWh
千葉県	466,471 kWh
東京都	647,553 kWh
神奈川県	756,924 kWh
新潟県	10,588 kWh
富山県	15,808 kWh
福井県	2,597 kWh
山梨県	322,222 kWh
長野県	2,621 kWh
静岡県	507,060 kWh
愛知県	25,259 kWh
滋賀県	9,795 kWh
京都府	14,400 kWh
大阪府	52,278 kWh
兵庫県	2,265 kWh
鳥取県	5,778 kWh
山口県	10,164 kWh
香川県	3,738 kWh
福岡県	19,009 kWh
長崎県	8,694 kWh
宮崎県	164,850 kWh
合計	4,291,687 kWh

※2003年5月から2005年11月1日までの会員のみなさまの発電量です（登録された分のみ）。

上尾市	4人	狭山市	9人
朝霞市	3人	志木市	1人
入間郡大井町	2人	草加市	4人
入間郡三芳町	1人	秩父郡小鹿野町	1人
入間郡毛呂山町	1人	秩父郡皆野町	1人
大里郡大里町	1人	秩父郡両神村	1人
大里郡妻沼町	2人	秩父市	4人
大里郡寄居町	1人	鶴ヶ島市	3人
桶川市	1人	所沢市	13人
春日部市	1人	戸田市	2人
加須市	3人	新座市	3人
上福岡市	3人	蓮田市	1人
川口市	2人	鳩ヶ谷市	1人
川越市	15人	羽生市	1人
北足立郡伊奈町	2人	飯能市	1人
北足立郡吹上町	1人	東松山市	2人
北葛飾郡鷺宮町	1人	比企郡小川町	2人
北葛飾郡大利根町	1人	比企郡玉川村	1人
北埼玉郡騎西町	1人	比企郡鳩山町	1人
北本市	1人	比企郡吉見町	1人
行田市	2人	比企郡嵐山町	1人
鴻巣市	1人	日高市	3人
越谷市	4人	深谷市	3人
児玉郡上里町	1人	富士見市	2人
児玉郡美里町	1人	本庄市	1人
さいたま市岩槻区	2人	三郷市	2人
さいたま市浦和区	5人	南埼玉郡白岡町	1人
さいたま市大宮区	2人	和光市	2人
さいたま市北区	2人	埼玉県合計	154人
さいたま市中央区	1人	(内準会員7人)	
さいたま市西区	3人		
さいたま市緑区	3人		
さいたま市南区	4人		
さいたま市見沼区	3人		
坂戸市	4人		
幸手市	1人		

熱海市	2人
伊豆市	6人
伊豆の国市	3人
伊東市	7人
掛川市	18人
加茂郡東伊豆町	2人
菊川市	2人
御殿場市	7人
静岡市葵区	5人
静岡市清水区	1人
静岡市駿河区	2人
裾野市	6人
駿東郡小山町	1人

駿東郡清水町	1人
駿東郡長泉町	7人
田方郡函南町	2人
沼津市	24人
浜松市	1人
富士郡芝川町	1人
富士市	29人
富士宮市	4人
三島市	6人
焼津市	1人
静岡県合計	138人
(内準会員1人)	

北諸県郡高城町	1人
北諸県郡三股町	1人
串間市	2人
小林市	1人
児湯郡川南町	1人
児湯郡木城町	2人
児湯郡高鍋町	1人
西都市	6人
日南市	1人
東諸県郡綾町	1人
東諸県郡国富町	3人
東諸県郡高岡町	2人
日向市	1人
都城市	5人
宮崎郡清武町	2人
宮崎郡佐土原町	1人
宮崎市	18人
宮崎県合計	49人
(内準会員1人)	

糟屋郡志免町	1人
北九州市八幡西区	1人
前原市	1人
長崎市	2人
(内準会員1人)	
東彼杵郡波佐見町	1人
南高来郡愛野町	1人

大島郡周防大島町	1人
山口市	1人
三田市	1人
高砂市	1人
東広島市	1人
倉敷市	1人
(準会員)	
高松市	1人
池田市	1人
大阪市東住吉区	1人
泉南郡岬町	1人
(準会員)	
狭山市	1人
高槻市	2人
箕面市	1人
八尾市	3人

香川郡徳島市	1人
高松市	1人
津市	1人
橋本市	1人
海部郡飛鳥村	1人
春日井市	1人
知多郡阿久比町	1人
名古屋市長和区	1人
(準会員)	
名古屋市中川区	1人
名古屋市西区	2人

富山県合計	154人
(内準会員7人)	
加賀市	1人
金沢市	1人
(準会員)	
鯖江市	1人
彦根市	1人
日野郡日南町	1人
相模郡山崎町	1人
(準会員)	
京都市西京区	1人
京都市伏見区	2人
相模郡山崎町	1人

富山県合計	154人
(内準会員7人)	
加賀市	1人
金沢市	1人
(準会員)	
鯖江市	1人
彦根市	1人
日野郡日南町	1人
相模郡山崎町	1人
(準会員)	
京都市西京区	1人
京都市伏見区	2人
相模郡山崎町	1人

富山県合計	154人
(内準会員7人)	
加賀市	1人
金沢市	1人
(準会員)	
鯖江市	1人
彦根市	1人
日野郡日南町	1人
相模郡山崎町	1人
(準会員)	
京都市西京区	1人
京都市伏見区	2人
相模郡山崎町	1人

富山県合計	154人
(内準会員7人)	
加賀市	1人
金沢市	1人
(準会員)	
鯖江市	1人
彦根市	1人
日野郡日南町	1人
相模郡山崎町	1人
(準会員)	
京都市西京区	1人
京都市伏見区	2人
相模郡山崎町	1人

富山県合計	154人
(内準会員7人)	
加賀市	1人
金沢市	1人
(準会員)	
鯖江市	1人
彦根市	1人
日野郡日南町	1人
相模郡山崎町	1人
(準会員)	
京都市西京区	1人
京都市伏見区	2人
相模郡山崎町	1人

富山県合計	154人
(内準会員7人)	
加賀市	1人
金沢市	1人
(準会員)	
鯖江市	1人
彦根市	1人
日野郡日南町	1人
相模郡山崎町	1人
(準会員)	
京都市西京区	1人
京都市伏見区	2人
相模郡山崎町	1人

富山県合計	154人
(内準会員7人)	
加賀市	1人
金沢市	1人
(準会員)	
鯖江市	1人
彦根市	1人
日野郡日南町	1人
相模郡山崎町	1人
(準会員)	
京都市西京区	1人
京都市伏見区	2人
相模郡山崎町	1人

富山県合計	154人
(内準会員7人)	
加賀市	1人
金沢市	1人
(準会員)	
鯖江市	1人
彦根市	1人
日野郡日南町	1人
相模郡山崎町	1人
(準会員)	
京都市西京区	1人
京都市伏見区	2人
相模郡山崎町	1人

富山県合計	154人
(内準会員7人)	
加賀市	1人
金沢市	1人
(準会員)	
鯖江市	1人
彦根市	1人
日野郡日南町	1人
相模郡山崎町	1人
(準会員)	
京都市西京区	1人
京都市伏見区	2人
相模郡山崎町	1人

網走市	1人
札幌市北区	1人
(準会員)	
室蘭市	1人

潮来市	1人
稲敷郡阿見町	1人
稲敷市	2人
牛久市	4人
笠間市	1人
鹿島郡神栖町	3人
鹿島郡大洋村	1人
鹿嶋市	5人
北茨城市	1人
古河市	2人
猿島郡境町	1人
猿島郡三和町	2人
猿島郡総和町	1人
下妻市	1人
筑西市	2人
つくば市	10人
土浦市	6人
取手市	2人
那珂郡東海村	3人
西茨城郡瀨町	2人
東茨城郡大洗町	1人
東茨城郡小川町	1人
東茨城郡城里町	2人
常陸大田市	3人
常陸大宮市	1人
日立市	6人
ひたちなか市	5人
真壁郡真壁町	1人
水海道市	2人
水戸市	7人
守谷市	4人
結城市	1人
龍ヶ崎市	3人
茨城県合計	88人
(内準会員1人)	

茨城県合計	88人
(内準会員1人)	
紫波郡紫波町	1人
盛岡市	1人
伊具郡丸森町	1人
岩沼市	1人
仙台市青葉区	1人
西白河郡泉崎村	1人

茨城県合計	88人
(内準会員1人)	
紫波郡紫波町	1人
盛岡市	1人
伊具郡丸森町	1人
岩沼市	1人
仙台市青葉区	1人
西白河郡泉崎村	1人

茨城県合計	88人
(内準会員1人)	
紫波郡紫波町	1人
盛岡市	1人
伊具郡丸森町	1人
岩沼市	1人
仙台市青葉区	1人
西白河郡泉崎村	1人

システム写真を募集します

太陽光発電所マップにみなさんのシステム写真を掲載します。掲載を希望される方は、写真にコメントを添えて事務局会報まで応募ください。応募の際は、名前のほかに必ず会員番号を連絡ください。



↑「最高の笑顔！」山梨県南巨摩郡増穂町の深澤学さん（会員番号A03078519）のシステム

2005年11月1日現在の会員総数 = 1256人

※賛助会員（3法人）含む

投稿お待ちしております！

会員の広場では、みなさんからの投稿を募集しています。PVにまつわる意見や提案、また雑感など、思いのままに書き綴っていただいた文章、あるいは自慢のシステムやイベントなどの写真、イラストなどを、封書やFAX、またはE-MAILで事務局会報係までお寄せください。

今回の号では、雨水タンクを設置されている宮崎地域交流会会員の栗原稔さん、そして「太陽光発電原状回復訴訟」当事者の愛知県名古屋市の藤田邦彦さんお二方から、ご自身の体験にもとづく貴重な意見をいただきました。

雨水タンク設置のおすすめ

【宮崎地域交流会副代表・栗原 稔】

みなさん、雨水をもっと利用しませんか。私は昨年の夏に500リットルの雨水タンクを設置しました。この水を愛用している寒蘭や、プランターの花、猫の額ほどの野菜畑にも使っています。

今年の台風14号では、宮崎市の浄水場2カ所のうちの1カ所が水没し、私の住む高台の新興住宅地は水道が3週間近く断水しました。給水車が来てくれるのですが、20リットルのポリタンクでは風呂やトイレの水までは運べません。幸い私はトイレに雨水タンクの水を使い、助かりました。この断水騒ぎで近所に雨水の利用をはじめた人が増えたのはうれしいことです。

水道水をつくるには、膨大な設備と多くの電力を使います。下水道設備も同様です。そのため、宮崎市の場合、2カ月に41トンの水道水を使うと、水道料金約4,900円と下水道料金3,400円の合計8,300円が徴収されます。

(独) 国立環境研究所の資料によると、水道水1トン

つくるのに、0.579kgの二酸化炭素が排出されるそうです。

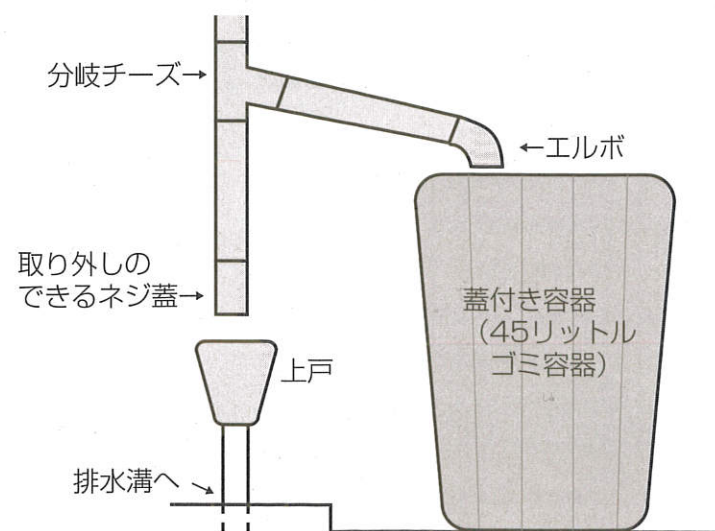
1997年に京都で開催された気候変動枠組み条約第3回締約国会議(COP3京都会議)で、いわゆる京都議定書が採択されました。最大の二酸化炭素の排出国アメリカが離脱しましたが、昨年9月にロシアが批准し、今年の2月16日ようやく発効しました。

ドイツなどはかなり排出抑制に成功しているようですが、ほとんどの国が増え続けているようです。日本の目標達成も容易ではなさそうです。企業の排出はかなり改善されつつありますが、交通や私たちの生活による排出ガスがどんどん増加しています。

天からの恵みの雨水を最大限利用して、水道水の使用を減らし、地球温暖化防止に少しでも役立てましょう。

最後に、費用も安く、場所もとらない簡易タンクについて取り付け図と費用を紹介します。

●簡易貯水タンクの取り付け図と費用



1、45リットルごみ容器	700円
2、分岐チーズ	438円
3、エルポ	208円
4、上戸	715円
5、ネジ蓋	500円
合計	2,561円

【アドバイス】

タンク内に少しでも光線が入ると藻が発生します。タンクの色は黒色で蓋のしっかりしたものがよいです。

※参考：サミットローリータンク(黒) 500リットル2万5000円

裁判に立ち上がる発電所長

【愛知県名古屋市西区・藤田邦彦】

～「設置者同士が孤立することなく手をつないでいく」という「PV-Net憲法」にはげまされて～

■太陽光発電設置の経緯

名古屋城の北西を流れている庄内川の左岸、琵琶里に私は25年以上住んできました。建物の南側は広いテニスコートですから、1年中、早朝から夕方まで日光が降り注いでいました。私が元気に育ったのは、この太陽光のおかげです。

1995年、阪神淡路大震災直後の現地に救援のために何度も入り、惨状を目にし、木造2階部に重量物を置いているわが家は倒壊すると悟り、耐震建築への建て替えを決意しました。この機会にエコロジー住宅にしようと考え、鉄骨3階建の屋上部には太陽光発電を設置することにしました。

1997年8月に京セラPV27C、モジュールG421-(W) 145W×27枚、インバータPVL-U0044、定格出力440kWの陸屋根型を頂いた建物が完成しました。発電はすこぶる好調で、何よりも環境保全に貢献している喜びがありました。

■奪われた日照権とPV-Netとの出会い

ところが、2004年2月、突然テニスコート敷地が売却され、鉄筋コンクリート7階建(21.09m)のライオンズマンションができるという計画がもち上がったのです。日影図を読みとると、秋から冬にかけての被害が甚大であることが判明しました。

建設を阻止するため、被害住民の会を結成し、法律、条例を駆使し、交渉、座り込み、市長による斡旋の闘いを続けました。しかし、現行の法律、条例は住民の日照を完全に守る力を有してはいません。ついに、マンションは建てしまったのです。被害住民は私を除いて2005年4月に、やむなく日照補償費、工事迷惑料等を受け取るという合意書を交わしました。

新たな闘いを模索していたころ、ためになる1冊の本に出会いました。「わが家ではじめる太陽光発電」です。特に「影になった太陽光発電所」(横山さん)は参考になりました。さっそくPV-Netに入会しました。

太陽光発電システム設置当時、建物南側(写真手前)は広いテニスコートだったため、発電はすこぶる好調。1997年8月撮影。



■太陽光発電原状回復を求めて

5月から業者との単独交渉に入りました。太陽光発電を設置したのはCO2を排出しない安全性の確かさであることを述べ、京都議定書、RPS法の趣旨を説明し、発電電力量回復のための移設を求めたのです。

6月に入り、業者に現場調査をさせ、コンピュータ・シミュレーションにより、モジュールに日影がかかることを認めさせ、移設の方向に業者も同意し、交渉を進めていました。わが家のシステムを設置した京セラ代理店にも現場調査を依頼しました。その結果、マンション屋上への移設や自宅屋上部での移設による原状回復は不可能であることがはっきりしました。代替として、既設のシステムを動かさず、モジュール4枚(180W×4)を増設することで補えることもわかりました。

7月、交渉で4枚増設を主張しました。業者は、住民に支払った額にシステムの減価償却費、さらにマイナス電力の金銭補償分を加えて支払うので合意してほしいと述べました。環境保全に貢献する電力回復ができるにもかかわらず、その策を採らず、金銭で解決しようというやり方は、私が太陽光発電を設置した考えにも反していますし、京都議定書、RPS法の趣旨からも逸脱しています。

よって私は、「太陽光発電原状回復訴訟」を起こすことにしました。「業者(被告)は建築基準法に定められた日影規制の有無を確認するために日照日影図を作成しているのに、建築前に日照被害を予想できたので、被告はその違法行為について故意がある。したがって被告に対し、民法709条により、太陽光発電システムの全面稼働、電力回復ができるモジュール増設費用相当額の支払いを求める。」という立論です。

■最後に……

この闘いは決して私ひとりの問題ではないと思います。横山さんの闘いは、私の闘いであり、さらに、各地で太陽光発電に情熱をかけている人、ひとりひとりに、いつでも起こりうる事態だと考えるからです。



7階建マンション(写真右側)の建設により、2005年4月から日陰の影響を受けることになった。特に11月から2月にかけての被害が甚大。2005年10月28日撮影。



【質疑】

PV-Net：値段はいくらくらいか、また、耐久性は？

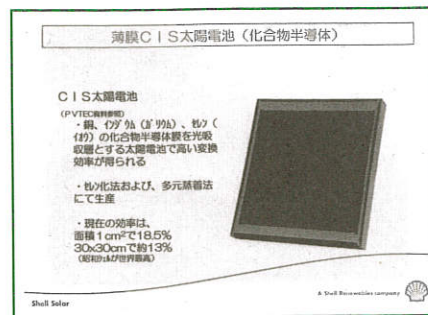
シェルソーラー：工場規模の問題。20MGWを考えている。いまのモジュールに比べても競争力のある価格で提供したいと思っている。耐久性はいまのシリコン結晶と同等。

PV-Net：シリコンは原料としてはふんだんにあるのに市場では足りない。CISも需要が伸びて足りなくなることはないか。

シェルソーラー：製造するための必要量が非常に少ない。具体的には言えないが、シリコンほど困っているという状態ではない。

PV-Net：1cm²の変換効率は18.5%、30cm²は13%と表記されているが、面積が大きくなると効率が下がるのか。

シェルソーラー：理論的には大きくても小さくても変わらないが、実際につくるのが難しい。より均一につくっていくのが難しい。



シェルソーラー日本の薄膜CIS太陽電池（化合物半導体）。年明け1月から操業開始予定

＝京セラ＝

【内容】防汚（ぼうお）タイプのモジュール「ECONOROOTSWIDE（エコノルーツワイド）」を9月に発売開始した。見た目を気にして傾斜角のゆるい設置を希望する人が多くなったため、雨が降ってもほこりや汚れが落ちにくい。アルミフレーム4箇所切れ目を入れて排水部とし、雨水で汚れが逃げていく方式としている。

さらにこれから需要が見込める中規模クラス（10～13kW）向けのシステムは、従来は屋根の大きさなどに合わせて設計していたが、システムを標準パッケージ化（太陽電池・PC・接続箱3点セット）して販売することでお客さんが購入しやすい形をつくった。従来の設置条件ごとのシステム提案より部材コストの軽減、設計、施工の簡略化に寄与している。

【質疑】

PV-Net：設置者の方からも汚れに関する相談が多い。汚れ（水垢、ほこり）によって実際にどれだけ効率が落ちるのかを知りたい。メーカー各社はデータをお持ちではないか。

メーカー：各社実験はしているが、一般的に提出できる数字かどうかの検証はできていない。PV設置状況は100人100様。メーカーが保持しているのは、あくまで限られた条件下でのデータでしかない。



京セラより9月に発売された「防汚（ぼうお）タイプモジュール」

■出席メーカーからの感想

＝三菱／東正基さん＝

グリーン電力証書「PV-Green」が一般に広がるのは間違いない。太陽電池はかなりの規模なのでグリーン価値は膨大。電力会社と一緒に取り組んでいくのが良いのではないか。PV-Net1団体の取り組みではなかなか大変だと思う。

＝シャープ／寺田健男さん＝
協賛金は社へ持ち帰り検討する。

災害調査アンケートは非常に参考になる。続けてもらい、私たちの見えないところで実際のことを知らせていただけるとありがたい。

＝セキスイハイム／中村良和さん＝

みなさんの熱心な姿勢を見せてもらって恐縮。住宅の中でPVに関わっているため、視点がPVのみに集中しづらい部分はある。自立運転に関しても社で様々な議論はあったが、進んでいない。繰り返しであってもPVへの重要性などを気づかせてもらっている。

＝シェルソーラー／松本節夫さん＝

会議に出るのが楽しみになっている。メーカーの立場に捕らわれてしまうが、ユーザーとしての立場から話をさせていただくと、目から鱗ということが多々ある。このような情報交換の場は有意義。

PV-Greenや協賛金については踏み込んだ話なので社へ持ち帰らせていただきたい。

＝京セラ／吉田信輔さん＝

初めて参加させてもらったが、有意義な時間を過ごせた。社では施工品質課を新設し、保証を出す前に社員が施工を実際に確認し、保証書を出すという仕組みを整えた。なお一層引き締めて販売を行っていきたいと思う。

※これまでも京セラ社は参加。

■メーカー交流会の今後

対立的になりやすいユーザーとメーカーとの話し合いの場ですが、毅然とし、お互いの立場を活かした協力体制を築き、PVが一般に信頼性を持たれながら広く浸透する方策を探っていく場となれば良いと思います。また、交流会で得た情報は会報、ホームページなどでみなさんへお伝えしていきます。

※メーカー交流会に対する要望・ご意見などをお寄せください。

地域の動き

茨城地域

～地域活動の今後の進め方～

04年現在、茨城県のPV設置者は5,600人を超えていると言われます。残念ながら私たちが開催するイベントへの参加者はいつも数十人程度で、しかもPV-Net会員が主です。もっと一般の方、PV興味が参加しやすいやり方が求められます。

これを図るひとつの方法として、もっと積極的に共催、後援の形で自治体の力を借りて行うことが考えられます。そこでPVの補助金制度を持っているM市を訪問し、依頼しました。

「本会では会員に多くのメリットあるサービスを提供しながら活動している。当市の補助金を受けて設置したPV所有者はほとんど本会の存在を知っていない。是非、それらPV所有者のみなさんにも自治体のほうから私たちのイベント開催を知らせていただきたい。そして当会のサービスの例として「発電装置の健康診断」、「電気料金計算ソフトの提供」、「PVグリーン証書」などの資料を用意して入会のメリットを説明し、「きっと、M市のPV所有者に対して親切なサービス提供になる」ことを訴えました。しかし、「自治体として、個人情報保護の観点からそのような協力はできかねる」との回答でありました。

また、その他数市の自治体に電話で問い合わせしましたが、いずれも毎年、環境課、消費生活課…などが地元住民を対象に産業祭りや消費生活展を開催しています。不特定多数の市民が集まる場であることを前提にしたこのようなイベントであれば、PV-Netが地域活動の場として参加することも概ね可能ではないかとの感触を得ました。局地的で地道な活動であり、成果の期待は未知数ですが、地域活動の一方法かと考えています。

（茨城地域交流会代表 前川淳治）

栃木地域

～地道な活動「第5回フォーラム」開催～

今年は夏場に、毎週イベントを行ったことと、残念ながら内閣府の助成事業に選ばれなかったことから、秋口にかけては少し充電期間になりました。

とはいえ、世話人は毎月盛り上がり、10月23日（日）には、那須野が原ハーモニーホール内の喫茶店で、県北小グループ懇談会を開催。今後の県北における会員拡大活動を話し合いました。

最近では、11月26日（土）に小山で開催する「太陽光発電設置者の集い～第5回PV-Netフォーラム栃木in小山」の準備に忙しい毎日です。

今回は隣県からの交通の便の良い場所での開催となるため、フォーラム案内ハガキは、栃木会員だけでなく、埼玉、群馬、茨城のみなさまにもお送りし、早速参加のご返事をいただいています。

会場定員30名と少し手狭ですが、栃木地域活動近況報告（石渡さん）、近隣発電量比較からみた栃木の発電量分析（鈴木さん）、わが家のPV自慢（矢口さん、大深さん）、PV-Greenご案内（納富）、そして参加者全員がグループに分かれて行う発電所長懇談会など、世話人が総力を挙げた、盛りだくさんの内容を準備中です。

年末から来年にかけても、県の環境局との第2回懇談会、好評「栃木県太陽光発電ガイドブック」2006年度版作成、栃木県主催イベント「エコテックとちの環2006」出展など、予定は目白押しです。

中でも、私にとって一番楽しみなのは、12月29日（木）に宇都宮市内での開催を予定している「栃木世話人会～大忘年会」です。栃木会員のみなさま、是非ご参加ください。

（栃木地域交流会代表 納富信也）

群馬地域

～ほのぼの？群馬です～

人数は少ない割に、結構楽しんでやっている「群馬」です。事務局の伊藤さんには、いつもいつも世話人を煽っていただいていることに感謝申し上げている今日のごろです。

さて、群馬といえばみなさんご承知のように「温泉天国」。今年の見学会も、前回同様「温泉三昧」をメインにワインを組み合わせて、「とにかく楽しむ」を前面に計画を進行中です。今回は、なんと隣の長野県までその触手を伸ばそうかと……。とはいえ、この原稿がみなさまの目に触れる頃にはきっと大満足(?)で見学会を終了しているかも。

こんなことばかり書いてると「遊んでばかり」とお叱りを受けそうですが、会員拡大に向けた活動も忘れてはけません。来年3月、日本一のソーラータウン「太田市城西町城西の杜」で設置者向けポストイン&PV-Green説明会を計画しています。時期的には上州名物「空っ風」も弱くなり、田んぼの麦の緑が目まぶしい頃です。春の一日を「新田義貞旗揚げの地」で遊んでみませんか？

なんて、またお叱りを受けそうだなあ～。なにせ人数の少ない「群馬」です。みなさんのご協力をひそかに期待しています。

それと……世話人会を長野行き新幹線「安中榛名駅」の会議室をお借りして開催しています。この駅そばは結構いけます。長野行き新幹線を使って駅そばを食べにきませんか。お勧めですよ？（群馬地域交流会世話人 梅澤耕一郎）

千葉地域

～「エコメッセちば」に出展してみよう～
9月18日に幕張メッセで行われた環境活動見本市「エコメッセち

ば2005」に初めて出展し、世話人8人で対応しました。客足は去年の夏休み中開催と比べると少なかったようですが、ブースに立ち寄った方にソーラーハウス模型による太陽光発電の仕組みを説明したほか、グラフ化した資料をもとに太陽光発電家庭のエネルギー収支事例などを紹介しました。

ソーラーハウス模型には、災害モードにすると電柱が倒れる仕掛けがあり、特に子どもたちには大ウケでした。ホームビデオ撮影の子どもインタビューも受け、日本が太陽光発電で世界一であることをアピールすると、熱心に取材してくれました。

PV-Green電力証書事業の話では、個人が自家消費した電気の環境価値部分を売買するという仕組みを理解してもらうのに苦労しました。しかし、自治体関係者の中には興味を持たれた方もおり、今後の環境イベント時に取り入れてもらえる可能性を感じました。

「エコメッセちば」に出展したことによって、多くの一般の方と交流することができ、太陽光発電や会の存在を大いにPRできたのではないかと考えています。立ちっぱなしだったので少々疲れましたが、大変有意義な一日でした。なお、会場での入会申し込みも1件ありました。

次は11月12日にバス見学会があります。富津火力発電所、シャープ(幕張)などを見学しつつ、会員相互の情報交換の場として交流も深めたいと考えています。

(千葉地域交流会代表 宮下朝光)



エコメッセちば出展の様子

● 埼玉地域 ●

～PV-Netの活動は地域から始まる～

先号で紹介しました埼玉の05年度における地域活動は、いよいよ佳境に入りました。

7月に埼玉県内各地で開催したPV-Green証書事業説明会で示された会員各位からのご要望にお応えするために、2006年1月開催予定の、所沢地区に場所を移した世話人会を皮切りに、移動世話人会の開催を企画しています。

11月6日に行った世話人会でも、2006年1月以降の地域行事の行動計画について熱心に討議しました。来月の世話人会で具体的企画案を決定し、みなさまにお披露目していく予定です。

また、世話人会では地域行事の充実を図るため、みなさまのご希望やアイデアを取り入れながら、会員のみなさまとともに楽しめる実用的で楽しい企画はなんだろうと模索していますが、みなさまのご期待に添えられているのか心配しています。本年度後半の行事を爽り豊かにするため、みなさまの積極的なご意見、ご提案をいただきたく思います。e-mail、Fax、埼玉MLなど、どんな方法でも結構です。連絡先は紙面の都合もあり、一例として下記に記しますが、世話人であれば誰でも受け付けますので、心置きなくお寄せくださるようお待ちしております。

〒355-0156

埼玉県比企郡吉見町長谷1504-60

樽谷 勇 宛

Tel& Fax : 0493-54-0932

E-mail : tarutani@peach.ocn.ne.jp

(埼玉地域交流会代表 樽谷 勇)

● 東京地域 ●

～フォーラム東京と地域イベント参加報告～

東京地域では10月1日(土)に恒例のフォーラム東京を、今回は目黒区で開催しました。事前に都

庁記者クラブや東京地域の各情報誌に掲載依頼を出したのですが、結果的には日刊工業新聞「エネルギーと環境」に掲載と時事通信社の取材を受けたのみでその他の新聞等には掲載されませんでした。

このため会員以外の参加はありませんでしたが、田中優氏の講演「自然エネルギーの先にある未来」は大変興味深く、参加された方々には楽しんでいただけたのではと思います。

10月15日の府中福祉まつりと16日の小平市民まつりは、参加された世話人の川原山さんから報告していただきます。

◆ 府中福祉まつり

府中福祉まつりにはカフェスローとエコメッセ、府中市環境課、PV-Netとの共同で出展しました。出展場所は入り口の突き当たりの良いところで、お客さんもたくさん来てくれました。PV-Netはリーフレットの配付と本の販売でしたが、会員でもあるエコメッセが太陽光発電装置一式のミニチュアを展示し、これには見学者が多くてなかなか盛況でした。天気も良くPVにはもってこいの日和でした。

◆ 小平市民まつり

この日は朝から雨が降っているあいにくの天気、府中のときとは正反対でした。でも思ったよりお客さんが来てくれ、販売も順調でした。特にミニソーラーカーが思った以上に売れました。子どものお小遣いにはちょっと高いようでしたが、子どもの土産にと、大人が買ってくれました。市民まつりは初めて見ましたが、大変盛況でした。



府中福祉まつりの様子

あと、東京のPV-Netも太陽光発電装置一式のミニチュアをつくったほうが良さそうです。リーフレットだけより、目で訴えるほうが効果も大きいのではないかと思います。

(東京地域交流会世話人 川原山浩一)

東京地域ではこれからもどんどん地域のお祭りに参加していきたいと思しますので、みなさまも是非ご参加を!

(東京地域交流会代表 高柳良大)

● 神奈川地域 ●

～神奈川の10月イベント三昧報告～

◆ 第5回PV-Netフォーラム神奈川

1日(土)、横浜大榎橋を眼下に見下ろす波止場会館で、前半はPV-Green、PV技術革新に関する研究報告、地域相談室開設案内、後半は自由討議の内容で開催しました。「楽しい地域活動をしたい」という声に圧されて、誰でも参加できる体験型の分科会の結成が決まりました。

◆ エコタウンかながわ2005

神奈川県主催で、15、16日(土、日)に藤沢市の県立辻堂海浜公園で開催されました。雨が曇りという天気予報にもかかわらず、15日は快晴、午前中曇りで午後から晴れの予報なのに一日中雨と曇りだった16日。まさに天気(予報)に振り回された2日間でした。

天気と少々不便な交通事情のため見物客の出足はいまひとつでしたが、我がPV-Net神奈川では、万博のソーラータウンミニハウスのさらなるミニチュア版として「マイ発電所ストラップ」をデビューさせ、たくさん子どもたち



第5回PV-Netフォーラム神奈川でのフォーラムグループ別フリーディスカッションの風景



「太陽光発電でドン!」にチャレンジ。エコタウンかながわ2005にて

ちが関心を示してくれました。

◆ 保土ヶ谷区民まつり

15日(土)、通称「保土ヶ谷へそ広場」星川グラウンドに、去年に続き出展しました。当日は、最近全く当たらない天気予報の「曇りから雨」のご託宣通り、ミニソーラーカーも動く好天に恵まれ、主催者発表3万人の人手でまさにごったがえしの状況。

PV-Netブースはやや地味でしたが、ミニソーラーカーによって、次代を担う子どもたちに太陽エネルギーの具象を見せることができました。

(神奈川地域交流会代表 野村安子&川崎の五右衛門)



子どもたちに紙芝居で環境教育。保土ヶ谷区民まつりにて

● 山梨地域 ●

～PV-Green証書の販売始まる～

10月30日、山梨県内のNPO法人「みどりの学校」の主催によりグリーン電力証書に関する学習会が開催されました。これに先駆けて、山梨地域交流会では、企業向けダイレクトメールを山梨県内の企業88社へ送付しました。まだ問い合わせなどはほとんどありませんが、今後も継続的に売り込みを行っていく予定です。また個人向けのPV-Green証書の販売も始めました。

12月に開催される予定のPV-Netフォーラム山梨「わが家でも始めたい太陽光発電」では、手づくり発電所の設置事例の紹介や設置希

望者へのアドバイスを行います。それらと同時に、集合住宅にお住まいの方や、その他の事情により太陽光発電が設置できないお宅でも、グリーン電力証書の購入という方法により太陽光発電の利用ができることを提案します。

(山梨地域交流会代表 大友 哲)

● 静岡地域 ●

～静岡県から委託事業を受託しました～

この度、静岡地域交流会世話人会は、静岡県環境森林部地球環境室から「地域の人材活用支援事業」を受託しました。この事業は、設立間もない組織・団体に環境教育・学習を実施させることで、その組織等を強化し自立させようとするものです。

この委託事業は以前から実施されており、昨年応募しようかと世話人で検討したのですが、時期的な問題があり、見送った経緯があります。今年は、応募内容に合わせるため、世話人会を改めて組織して応募しました。その結果、見事に受託することができました。

受託事業内容としては、「グリーン電力証書普及事業」と名打ち、静岡県東部地域の自然エネルギーの活用に興味のある方々を対象に「環境価値とグリーン電力証書化」と「太陽光発電設備の維持管理」に関する講演会を開催する予定です。また、PV-Greenについても宣伝したいと考えています。

この事業が静岡県から委託された内容です。ちなみに委託料は10万円です。また、今回の事業推進には、静岡県三島市の多大なるご協力をいただいています。

今回の事業の開催日が決まりましたら、PV-Netのみなさまにはご案内いたしますので、是非ご参加ください。

(静岡地域交流会世話人 及川智文)

2005年度第3回理事会

- 日時：11月5日(土) 14:00~17:30
- 場所：明治大学 研究棟
- 参加者：理事18名、監事2名、評議員1名、オブザーバー3名、事務局3名

各種イベントの出展企画案、助成金の申請・採用状況、PV-Green事業の現状についての説明があり、三役からは日照権裁判支援の表明、事務局からNPO申請の進捗状況の報告がされました。

その他、報告事項として協賛金について地域での活動のお願い、理事選出方法のルール策定の告知、三役によるPV-Net運営についての検討、万博の収支報告、東京電力との連絡会の開催予告などがありました。

確認された事項は、地域活動資金の交付方法とその内容、経理規定別表の改訂案、中長期財政案策定方針案。提案事項として山梨地域交流会より小水力発電への参加、太陽光発電設備共同購入・設置事業者紹介事業化があり、このほか、(株)グリーンファンドよりドイツ太陽光発電出資者募集の協力願いの説明がありました。

普及広報部

普及広報部では、より見やすく、使いやすいホームページ(以下、HP)を目指してHPのリニューアルを進めております。そのひとつとして、先日メーリングリストでもお知らせした通り、HPの管理会社を変更しました。

これによりスピーディなHPの変更が可能となりましたので、どんどん変更していく予定です。どんなHPになるかご期待ください。また、「ここが使いにくい」とか「ここはこうしたほうが良い」などのご意見・ご希望があればどしどし事務局まで電話(03-3221-3370)か

メール(info@greenenergy)、HP会員のページへの直接入力でお知らせください。

HPはこの会の顔でもあり、会員の方には発電電力量を入力するツールでもあります。これを充実した良いものにするには会員みなさんの協力が欠かすことができませんので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、普及広報部では12月に開催される「エコプロダクツ2005」の準備も始めています。別欄のエコプロダクツ展プロジェクトの活動報告の記事をお読みいただき、みなさんのご参加をお待ちしております。

(普及広報部座長 高柳良大)

■エコプロダクツ展プロジェクト

PV-Netが発足以来参加しているエコプロダクツに今年も参加します。エコプロダクツは国内でエコグッズ関連を販売している企業やエコ活動を行っているNPO/NGOが一堂に会する国内最大規模の環境展示会です。

多くの展示会参加企業の目的が、自社製品・サービスのPRだということが特徴です。このため、NPO/NGOブースは年々参加する団体が増えており、今年も昨年に比べ1コマの展示スペースが2/3に狭くなってしまいました。

しかし、このエコプロダクツは一般の展示会とは違い、エコに意識の高い方々が、昨年度は12万人以上も参加され、展示ブースでは活発な意見交換がなされてきました。今年もこの多くの展示団体の中で活動をアピールできるような展示物を厳選して行いますので、みなさんもお立ち寄りください。

また、前述した通り、エコプロダクツは国内最大規模のエコ関連の展示会でもあります。会員のみならずにはエコプロダクツにご来場いただき、是非とも最先端のエコ関連情報・エコグッズを実際に目

を見て、他団体の方々と情報交換を行い、そして手で触れて肌で実感していただきたいと思っております。きっとみなさまのエコライフがレベルアップするに違いありません。

ついでに、半日だけでもPV-Netブースをお手伝いしていただける方を募集しております。半日はPV-Netブースで太陽光発電について来場者の方と意見交換をしていただき、残りの半日は会場を見て回り、最新のエコ情報の収集を行っていただければと思います。詳しくは事務局までご連絡ください。

(普及広報部座長 高柳良大)

財政部

秋も深まりました。今年には特に各地で環境に関連する催しが多く開かれている感じがあります。休日ごとに会員や世話人のみなさまはあちらこちらのエコ・イベントへの出展に忙しく活動をなさっておられることでしょう。

そんな中の10月10日に、各地域の会計担当者の話し合いが持たれました。議題はこれからのスケジュールの確認と、中長期財政案の中のマニュアルづくりのひとつ、地域事務局会計運用ルールづくりです。出席された地域会計担当者間で多くの議論が交わされました。地域の活動費、予算の支給方法や紛らわしい科目の仕分け統一など、今後拡大してゆく地域交流会のために、3年目のいま、改めて見直しておきたいところです。

たとえば、地域交流会の会場で受けた会費の処理方法、一般の地域活動外の事業経費の請求範囲、会費更新の事務処理などなど……。このようなルールづくりは、地域事務局の体制にも必要なことですが、ますます増えていく全体の事務量に対して、少ない事務局員が合理的な方法をとれ、事務量や間違いなどを軽減させてゆくためでもあります。

今年度も半ばを過ぎました。もうひとつの重要事項、中長期の財政案を立てるべき頃になりました。大口の寄付金からの会の自立、会員の拡大と多角的な収入の目安を立てることも課題です。

最後に、みなさんが関心をお持ちのNPO化は、現在、内閣府に提出して縦覧期間です。認められれば速やかに移行の諸手続きに入ります。その日のために事務局は待機しております。

(財政部座長 関沢ひろみ)

相談室

秋に入り、ぐずついた天候で、PVもすっかり休眠状態であったものが、天候の回復とともにようやく元気を取り戻しつつあります。また、秋は各地でイベント開催のシーズンでもあり、その出展にみなさん忙殺されているのではない

かと推察しています。そんななかで「相談コーナー」など、相談室の活動が有効に使われておれば幸いです。その分、本会の相談室の活動が休眠状態で、早く目覚めて動き出す必要があります(ただし、日常の相談窓口はちゃんと開いています)。

9月の相談室部会で新しい活動の方向付けを行いました。

◆相談室・支援グループ
日常的に発生している相談事項に対する対応は、主任相談員、地域相談員を中心に進めておりますが、さらに相談員勉強会を開催し、レベルアップを図っていきます。あわせて相談窓口の対応方法改善施策についても検討していきます。

◆データ分析グループ
相談室組織の中でも、「自由で楽しい活動を」と期待しているものです。当面、プロジェクト活動テーマとして5テーマ、サークル

活動テーマとして3テーマをリストアップしました。これらのテーマの活動を進めるなかで、新たなテーマがどんどん出てくればベターと考えています。

◆資料管理グループ
旧調査委員会で進められていた作業を引き継ぎ、早急に具体的活用に向けた活動をスタートさせます。会員のみなさんの要望も是非お聞かせください。極力取り入れた活動を検討していきます。(相談室座長 國井範彰)

PV-Green事業部

「平成17年度地域協同実施排出抑制対策推進モデル事業」の取り組み、およびPV-Green証書の活用事例に関する記事(P.8-9「PV-Net最前線」)を参照ください。

PV-Net川柳第七回

消えそうで消えないPV・Net川柳は、七回目を迎えた。九月、十月と天候不順で、発電も思ったほどではないが、PV・Net川柳も、全くと同慶の至り。数少ない川柳愛好家のご尽力によって、このコーナーが存続でき、感謝の念に絶えない。

いつものことだが、川柳だからといって「難しく」考える必要はない。簡単に言うところ、川柳は、「季語のない俳句」と思っていたらだいたいいい。ユーモアや皮肉、駄洒落は川柳の本筋ではないため、深く考えないで結構。五七五調で生活を詠んだもの、ここでは太陽光発電に関わるもの、ということになる。

ただ、江戸川柳と言われるものは、人情・世態・風俗を鋭くとらえ、滑稽・風刺・機知などを特色としている。

今回も、貴重な投稿川柳をご紹介します。

① 落ち葉して我が家のPV元気出る
(神奈川・川崎の五右衛門)

② 斜め日にパネルが実力もてあまし
(埼玉・的場1号発電所)

③ 屋根だけにほしい常夏太陽光
(埼玉・XYZ)

PV・Net川柳も、数より中身、秀作揃いだ。

① 句目は、わが家のそばに大きな樹木夏場は樹木の葉が生い茂り、太陽光パネルに影響があるのかないのか、気になる存在だ。環境上から言っても、樹木もわが家の発電所も大事だ。どうしたもんだろと思案をめぐらすも、十月も過ぎると葉も落ち始め、すっきりしてくる。葉がみな落ちる頃になると、屋根の上のパネルも生き生き見えるから不思議だ。でも、残念なのは、日照時間が短くなることだ。(お断り..投稿文の「落葉(おちば)して」を「落ち葉して」に変えました。)

② 句目は、秋分の日が過ぎると、冬至に向かつて日が短くなってくる。十一月の半ばを過ぎると、釣瓶落としの秋の日差しの逃げ足の速いこと、早いこと。春から夏にかけての六〇%程度の発電量だ。秋の陽の傾きにパネルのぼやきが聞こえてきそう。オレの本当の実力はこんなものではないと、あれ? どこかで聞いたような文句だが……。

③ 句目は、妄想を言っているに過ぎない。日本は、四季のある国だ。どうして屋根に、ハワイとかバリが持つてこられるというのか。でも、気持ちみんな同じだろう。屋根が常夏なら、発電量は四〇%も増える計算になる。そうすれば売電料金が四〇%増すので、晩酌の発泡酒がビールに格上げだ。そうだ、先ず、ビールで乾杯しよう。

いかがかな。次号では、あなたの川柳とお会いしたいものである。
(担当:普及広報部・松田廣行)

【応募方法】名前およびペンネームを明記の上、自作の作品三句以内をハガキまたはEメールなどで事務局宛にお願いします。なお、作品は返却しません。

PV-Net News第9号 2005年12月7日発行 ■発行人:日江井榮二郎 ■編集人:都筑 建 ■発行所:太陽光発電所ネットワーク 〒101-0061千代田区三崎町2-15-5-6F
■記事・広告等のお問い合わせ E-Mail: info@greenenergy.jp TEL: 03-3221-3370 ※記事および写真等の無断転載は固くお断わりいたします。
■インターネットでも情報をご覧ください。www.greenenergy.jp ■印刷:豊印刷(株) ■レイアウト:八木澤晴子 ■編集協力:(株)NOBOX
※太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。
太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network, Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

CONTENTS もくじ

- 1 ニューストピックス
大集合イベントが開催されます
会員を増やしましょう!
イベント出展花盛り!
 - 2 特集 徹底検証!
会員拡大プロジェクト
第1部: 会員拡大を進めるにあたって
 - 4 第2部: 座談会
「会員拡大の方法論について」
 - 8 PV-Net最前線
「平成17年度地域協同実施排出抑制対策推進モデル事業」の取り組み
PV-Green証書が売れています!
「太陽光発電所ネットワークフォーラムin大阪 9/25」を準備して
 - 10 イベント情報
全国の太陽光発電所長、集まれ!
 - 11 連載 太陽光発電がよくわかる
とっておきの話 第5回
 - 12 各地の発電量データと太陽光発電所マップ
 - 14 会員の広場
 - 16 PV-Netレポート
PVメーカー交流会の目的と最新報告
 - 19 活動報告 地域の動き
 - 22 理事会&部会報告
 - 24 事務局からのお知らせ
事務局日誌
- COLUMN** コラム
- 23 PV-Net川柳 第七回

NEWS TOPICS

大集合イベントが開催されます

来たる12月10日(土)午後、千代田区神田駿河台の明治大学リパティタワー11階で、恒例の「全国太陽光発電所長・大集合イベント」が開催されます。かつて出席された方はこのイベントの盛りだくさん内容をご承知ですが、一度も参加されていない方は、その活気が「PV-Net News」の事後報告だけでは到底理解しきれないと思います。とにかく「来てみにゃわからんこの活気」です。是非一度参加してみてください。

会場の定員の関係で、できるだけ事前申込みをお願いしています。ハガキでもご案内していましたが、この会報がお手元に届いてから申込みまでの期間が極めて短いので、イベント情報のページ(P.10)をよくお読みいただき、大至急申込みの手続きをしてください。先着160名だけに参加資格が発生します。「オプション申込み」というものもあります。

会員を増やしましょう!

会員になった人の中には、「会報を年に4冊もらえるだけでも会費の元がとれる」と言ってくれる方がいます。「太陽光発電に関する深い知識がたくさん得られる」との声も多い「PV-Net News」。

しかし、この会報の存在を知っているのは全国の太陽光発電設備設置者約25万人のうち、たったの1,265人(2005年11月20日現在)です。まだ当会の存在を知らない設置者に、なんとかしてPV-Netを紹介し、会員にならないと損をすることに気づいていただきましょう!(お誘いのためのリーフレットなども用意できます。詳細は事務局まで)

そこで、今回の号では「会員拡大」特集(P.2-7)を組みました。第2部の座談会では、会員拡大のハウツーに関する貴重な意見・提案を数多く紹介しています。是非ご参考ください。

イベント出展花盛り!

各地域からこの秋のシーズンに参加・出展したイベントの報告が多数届いています。また、この第9号会報がお手元に届いたすぐあとの12月15日(木)~17日(土)に東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクツ2005」をはじめとして、これからも各地で様々なイベントへの参加・出展が予定されています。みなさん、PV-Netブースへの冷やかしも兼ねて、お近くで開催されるイベントに是非お出かけください。PV-Netブースをお手伝いいただけるスタッフも募集中です。